

29年7月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成29年 7月1日～ 29年7月10日

2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は15社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

ア. 国産材

(1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/7月	8月	9月
入荷動向	スギ	△ 27.8	△ 5.6	0.0
	ヒノキ	△ 35.7	△ 14.3	0.0
	カラマツ	0.0	0.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 50.0	0.0	33.3
消費動向	スギ	11.1	22.2	22.2
	ヒノキ	△ 12.5	△ 6.3	6.3
	カラマツ	0.0	△ 50.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	25.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 27.8	△ 16.7	0.0
	ヒノキ	△ 25.0	△ 18.8	△ 6.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	25.0	0.0

・製材用原木の入荷動向は、スギ、ヒノキとも3カ月連続減少。カラマツは7月、8月の横ばいから9月は減少に。トドマツは7月の減少から8月は横ばい、9月は増加に。
・消費動向は、スギは3カ月連続増加。ヒノキは7月、8月の減少が9月は増加に。カラマツは7月の横ばいから8月は減少、9月は再び横ばいに。トドマツは7月の減少から8月は増加、9月は横ばいに。
・在庫動向は、スギは7月、8月の減少から9月は横ばいに。ヒノキは3カ月連続減少。カラマツは3カ月連続横ばい推移。トドマツは7月の減少から8月は増加、9月は横ばいに。

(2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	29/7月	8月	9月
スギ	△ 16.7	△ 5.6	0.0
ヒノキ	6.3	△ 6.3	△ 6.3
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	25.0	25.0

・製材原木の価格動向はスギ、ヒノキとも弱含み。カラマは保合いで推移。トドマツは強含み。

モニターからのコメント

'(原木荷動き)

・カラマツ・トドマツともに入荷は横ばいだが、運材用のトラック不足が要因の一つ。6月は生産量が増加したが、新工場の操業が軌道に乗ったことが大きい。原木在庫は現状維持で行く(北海道)。
・国有林のシステム販売分が未入荷。民有林も7月よりようやく造材開始したことから、本格的な入荷は8月からか。消費動向は原木在庫に合わせた生産を実施しており、受注は旺盛。在庫は、生産調整して10日分位の在庫(北海道)。
・入荷動向は、時期的に伐採減となる見通しで入荷減(関東)。
B40:I53 ・スギ丸太に虫害が出ている(関東)。
・仕入れを減少させているので入荷も同様に減少している。消費はヒノキが多少落ち込んだもののスギの割合を増やしたので生産体制は変わらず。在庫はスギ・ヒノキとも減少(中部)。
・空梅雨のためか入荷に減少傾向はみられない。今月中に製材機械の修理が完了する見込みなので、消費量の上積み期待できる(中国)。
・トドマツ丸太の入荷は7月、8月は減少する見込み。スギ丸太の消費は7月の横ばいから8月は減少、9月は増加になる見込み。在庫は7月の減少から8月は横ばい、9月は増える見込み(中国)。
・入荷 消費 在庫動向とも相変わらずスギは3m柱取りの出荷が少ない ヒノキは順調(中国)

(原木価格)

・トドマツ丸太は全道的に不足感あり。取り合いになれば価格は上昇(北海道)。
・在庫時期ではないので、原木価格は落ち着いている(関東)。
・スギ・ヒノキともに価格は下降気味だが、8月から9月にかけて市に出材される丸太の減少から多少価格が回復すると思われる(中部)。
・季節的な要因もあり、若干の下がる見通しだ(中国)。
・ヒノキ3mの14-16cm、18-20cmが10~15%高騰。スギは柱については相場を上げるほどの量がない。中目丸太はジリ安(中国)。

29年7月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

(3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/7月	8月	9月
生産動向	スギ	5.6	11.1	16.7
	ヒノキ	△ 12.5	△ 6.3	18.8
	カラマツ	0.0	△ 50.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
出荷動向	スギ	11.1	11.1	22.2
	ヒノキ	12.5	12.5	18.8
	カラマツ	—	—	—
	トドマツ	—	—	—
在庫動向	スギ	△ 31.3	△ 31.3	△ 12.5
	ヒノキ	△ 43.8	△ 25.0	△ 18.8
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・製材品の生産動向は、スギは3カ月連続の増加。ヒノキは7月、8月の減少から9月は増加に。カラマツは7月の横ばいから8月は減少、9月は再び横ばいに。トドマツは3カ月連続横ばい推移。

・出荷動向は、スギ、ヒノキとも3カ月連続増加。

・在庫動向は、スギ、ヒノキとも3カ月連続減少。カラマツ及びトドマツは3カ月連続横ばい推移。

(4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		29/7月	8月	9月
スギ	柱角 KD10.5×3	11.1	5.6	11.1
	柱角 KD12×3	5.6	0.0	△ 5.6
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	8.3	16.7	16.7
	母屋角	14.3	14.3	14.3
	タルキ	8.3	8.3	8.3
	間柱	6.3	6.3	6.3
	ヌキ	△ 16.7	△ 8.3	△ 8.3
	平割	7.1	7.1	7.1
	ラミナ	12.5	0.0	0.0
	ヒノキ	柱角 KD10.5×3	12.5	12.5
柱角 KD12×3		6.3	6.3	6.3
土台角 10.5×4		25.0	12.5	12.5
土台角 12×4		6.3	0.0	0.0
通し柱 12×6		0.0	0.0	0.0
ラミナ		8.3	8.3	8.3
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ製材品の出荷価格動向は、柱角KD10.5×3、桁角、母屋角、タルキ、間柱、平割とも強含み。通し柱、ラミナは保合い。柱角KD12×3、ヌキは弱含み。

・ヒノキは柱角KD10.5×3、KD12×3、土台角10.5×4及びラミナとも強含み。土台角12×4及び通し柱は保合い。

・カラマツ梱包仕組み板、ラミナとも保合いで推移。

・トドマツサンギは3カ月連続横ばい推移。

モニターからのコメント

(製材品荷動き)

- ・8月はカラマツの産業用途が多少落ち込むことを見込んでる（北海道）。
- ・原木在庫に合わせた生産を行っており、既存客への安定販売に努めている。受注は旺盛だ（北海道）。
- ・スギ製材品は残業により増産している（関東）。
- ・稼働日並みの生産をしているが、ヒノキ在庫が多少多いので調整している。在庫のバランスを見ながら販売全体として動きはそれなり（東海）。
- ・製材機械修理後の復調に期待している。一部製品に不足感はあるものの全体を押し上げるほどではない。梅雨明けには増産できる見通しなので秋需に備えたい（中国）。
- ・ヒノキの生産動向は7月は前月並み、8月は減少、9月は増加させる。出荷及び在庫は7月は横ばい、8月は減少、9月は増加する（中国）。
- ・受注は多いが丸太入荷量に合わせての生産ができない。スギ、ヒノキとも10.5×3m角を中心に注文が多い（中国）。
- ・入荷動向は、九州北部豪雨や野の他の大雨による一時的な出材減は考えられるが、全体的には影響はないのでは。消費、在庫動向は特に変化はない（九州）。

(製材品出荷価格動向)

- ・高値でも安定的に原木があればトドマツサンギの値上げに動く（北海道）。
- ・スギは、九州材の入荷減少で4mの母屋・桁材が上昇している。ヒノキは土台不足で価格上昇（関東）。
- ・スギヌキのグリーン材は下落している（関東）。
- ・スギ・ヒノキとも製品単価に大きな変動はない見込み（中国）。
- ・ヒノキは7月、8月はやや上昇する見込みだが、9月は横ばいになる見込む(中国)。

29年7月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

(1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		29/7月	8月	9月
仕入動向	米マツ丸太	△ 50.0	0.0	50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	△ 50.0	0.0	50.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・製材用米マツ丸太の仕入及び消費動向は、7月の減少から8月は横ばい、9月は増加に。在庫動向は3カ月連続横ばい推移。

・NZラジアータは仕入、消費、在庫とも横ばい推移。

(2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	29/7月	8月	9月
米マツ丸太	50.0	50.0	50.0
NZラジアータ丸太	50.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ、NZラジアータ丸太とも原木購入価格動向は強含みで推移。

モニターからのコメント

(原木荷動)

- ・現在、不需要期間内のため入荷、消費、在庫動向とも横ばい推移。

(原木価格動向)

- ・NZ丸太の当月入荷価格は、USドルで5.00/m³ (FOB価格) アップしたことからやや上昇。

29年7月分

製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

(3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	29/7月	8月	9月
生産動向			
米マツ製材品	△ 50.0	△ 50.0	50.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向			
米マツ製材品	△ 100.0	△ 50.0	50.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向			
米マツ製材品	△ 50.0	0.0	0.0
NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産動向は7月、8月の減少から9月は増加に。在庫は7月の減少から8月、9月は横ばいに。

・NZラジアータ製材品は生産、消費、在庫とも横ばい推移。

(4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	29/7月	8月	9月
米マツ平角	0.0	50.0	50.0
米マツ正角	0.0	50.0	50.0
米マツ小割	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	0.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)	0.0	0.0	0.0
NZ土木用材	0.0	0.0	0.0
その他	—	—	—

・米マツ製材品の出荷価格の動向は平角、正角とも7月の横ばいから8月、9月は強含みに。小割は横ばい推移。

・NZ梱包材（割板・割角）、土木用材とも横ばい推移。

モニターからのコメント

(製材品の荷動き)

- ・現在、不需求期間内のため入荷、消費、在庫動向とも横ばい推移。

(製材品出荷価格動向)

- ・NZラジアータ製材品の出荷価格動向は、不需求期につき横ばい。